



おおしゅう

尼崎市立大庄小学校
学校だより NO. 4
令和7年7月1日

平和の詩「おばあちゃんの歌」～沖縄戦終戦80年目の節目に～

6月23日、沖縄県で「戦後80年沖縄全戦没者追悼式」が行われました。第二次世界大戦中、沖縄県では民間人を含め20万人を超える方々が亡くなりました。糸満市摩文仁の平和記念公園には沖縄戦などで亡くなった方の名前を刻んだ碑が並んでいます。1995年に建設され、ゆるぎない平和への想いを込めて「平和の礎（へいわのいしじ）」と名付けられました。毎年、戦没者の名前が「平和の礎」に加えられ、礎に刻まれた人はあわせて24万2567人となりました。沖縄戦の悲惨さを伝えようと、今年、戦没者の名前を一人一人読み上げる取組が行われました。この取組に5810人が参加し、23日間かけてすべての名前を読み上げたそうです。

また、追悼式では沖縄の子ども達が「平和の詩」を毎年読み上げています。「平和の詩」とは、戦争を体験していない世代が身近なことから沖縄戦や平和について考え詩にしたものです。今年、豊見城市立伊良波小学校6年の城間一步輝（いぶき）さんが、おばあちゃんから聞いた沖縄戦のことや命について考えた詩を朗読しました。（全文は裏面に掲載しています）わたしは、その詩を読んで胸が苦しくなりました。小学6年生の児童が、おばあちゃんの言葉の意味を考え、おばあちゃんの心と体に残る消えないきずについて考え、戦争と命についてここまで考えたのかと…。

戦争を体験していない世代が増えていく中、戦争について知ること、平和について考える場を意識的に設けていくことは大切です。国語の教科書には、各学年において戦争に関する教材が掲載されています。令和の時代となり、教師も子ども達も戦争を体験していない世代となりましたが、平和について、命について、子ども達と立ち止まって考えていきたいと思えます。

8月6日に広島市で行われる平和記念式典でも、小学生が「平和への誓い」を読み上げ、世界に向けて平和のメッセージを発信します。同じ小学生がどのような言葉で思いを伝えるのか、少しでも結構ですので、ニュースや新聞を見ながらご家族で話し合う場を持っていただけましたらありがたいです。

7月の朝会のお話（要約）

4月の始業式で子ども達に伝えた「プラス言葉とマイナス言葉」についてふり返りました。

勉強中に「無理、やりたくない、できない」など言ってませんか。人に対して「むかつく、きたない、くさい」など言っていませんか。「向こうが先にやってきた」と言うけれど、あなたから相手を傷つける言葉を言ったりあおったりしたことがけんかのきっかけになっていませんか。「自分だけじゃない、友だちもやっている」と言うけれど、友だちがしていたら自分もしているのかな。さて、どうでしょうか。

441人の子ども達が生活していると様々なことが起こります。先生たちは、どうしてそうなったのか、お互いの言い分や理由、気持ちをしっかり聞きます。でもその中で、ルールを破ったり人を傷つけたりするような行為があった場合、厳しく叱ることもあります。それは理解してほしいと思えます。

言葉は人を救うこともあるし傷つけることもあります。子どもも大人も同じように傷つきます。「ありがとう、やってみる、大丈夫？ごめんなさい」プラス言葉をたくさん使って、学校中をあたたかい空気でいっぱいにしていきましょう。

【7月の行事予定】

日	曜	行事	日	曜	行事
1	火	個人懇談 避難訓練	16	水	12:30頃下校
2	水	個人懇談	17	木	12:30頃下校
3	木	個人懇談	18	金	終業式、大掃除（11:30頃下校）
4	金	個人懇談	19	土	夏季休業日
5	土		20	日	
6	日		21	月	海の日
7	月	委員会（アルバム撮影予備日）	22	火	
8	火		23	水	
9	水	避難訓練予備日	24	木	
10	木		25	金	
11	金	給食後下校（13:30頃）	26	土	
12	土		27	日	
13	日		28	月	
14	月	給食後下校（13:30頃）	29	火	
15	火	給食終了 給食後下校（13:30頃）	30	水	
			31	木	↓

【8月の主な予定】

11日（月）～17日（日） 学校閉鎖期間
 27日（水） 5年生登校日（午前中）
 29日（金） 始業式、大掃除、



地域の皆さま、PTAの皆さまに支えられています②（学校外活動より一部紹介）

【大庄のレストラン】

ボランティアグループ「アプサラス」の皆さまが、月1回、大庄元気むらでおいしいカレーライスを提供しています。特定原材料7品目不使用のカレールーを使用し、アレルギーの子ども達への配慮もしてくださっています。

【駄菓子屋 藤や】

大庄西子育て支援サークルの皆さまが、大庄西福祉会館で駄菓子屋さんを開いています。駄菓子屋さんをとおして、地域の遊び場や子ども達の居場所づくりをしてくださっています。

☆公園の遊び方について

地域の方から、「校区内の公園で、子どもたちが通路をふさいで自転車を置いている。」と連絡をいただいたり、公園を利用している方とトラブルになったりするケースも起きています。学校でも引き続き指導をしていきますが、ご家庭でも公共施設でのマナーについて確認をお願いします。

また、日が長くなってきたことで遅くまで公園で遊んでいる児童もいます。5月には水明公園での不審者情報もありましたので、ご家庭でも帰宅時間について再度注意をお願いします。

☆児童用タブレット・ACアダプターについて

夏休みに児童用タブレットを持ち帰ります。学習用アプリもありますので、自主学習にご活用ください。また、充電用ACアダプターがご家庭にあるかどうか、今一度確認しておいてください。

「おばあちゃんの詩」

豊見城市立伊良波小学校

6年 城間 一步輝

毎年、ぼくと弟は慰霊の日に
おばあちゃんの家に行って
仏壇に手を合わせウートーをする

一年に一度だけ
おばあちゃんが歌う
「空しゅう警報聞こえてきたら
今はぼくたち小さいから
大人の言うことよく聞いて
あわてないで さわがないで 落ち着いて
入って いましよう防空壕」
五歳の時に習ったのに
八十年後の今でも覚えている
笑顔で歌っているから
楽しい歌だと思っていた
ぼくは五歳の時に習った歌なんて覚えていない
ビデオの中のぼくはあんなに楽しそうに踊りながら歌っているのに

一年に一度だけ
おばあちゃんが歌う
「うんじゅん わんにん 艦砲ぬ くえーぬくさー」
泣きながら歌っているから悲しい歌だと分かっていた
歌った後に
「あの戦の時に死んでおけば良かった」
と言うからぼくも泣きたくなった
沖縄戦の激しい艦砲射撃でケガをして生き残った人のことを
「艦砲射撃の食べ残し」
と言うことを知って悲しくなった
おばあちゃんの家族は
戦争が終わっていることも知らず
防空壕に隠れていた
戦車に乗ったアメリカ兵に「デテコイ」と言われたが
戦車でひき殺されると思い出て行かなかった

手榴弾を壕の中に投げられ
おばあちゃんは左の太ももに大けがをした
うじがわいて何度も皮がはがれるから

アメリカ軍の病院で
けがをしていない右の太ももの皮をはいで
皮ふ移植をして何とか助かった
でも、大きな傷あとが残った
傷のことを誰にも言えず
先生に叱られても
傷が見える体育着に着替えることが出来ず
学生時代は苦しんでいた

五歳のおばあちゃんが防空壕での歌を歌い
「艦砲射撃の食べ残し」と言われても
生きてくれて本当に良かったと思った
おばあちゃんに
生きていてくれて本当にありがとうと伝えると
両手でぼくのほっぺをさわって
「生き延びたくとう ぬちぬ ちるがたん」
生き延びたから 命がつながったんだね
とおばあちゃんが言った

八十年前の戦争で
おばあちゃんは心と体に大きな傷を負った
その傷は何十年経っても消えない
人の命を奪い苦しめる戦争を二度と起こさないように
おばあちゃんから聞いた戦争の話を伝え続けていく
おばあちゃんが繋いでくれた命を大切に
一生懸命に生きていく

(HNK ホームページより)